

事業進捗状況報告について

1 事業進捗状況報告

これまでから総合事業等審査会では審査を行った事業について、審査意見の反映状況等を確認するため、事業進捗状況報告を実施している。

2 今回の事業進捗状況報告

次の事業について、進捗状況の報告を行う。

○ 阪神北地域新設特別支援学校（仮称）整備事業（令和元年度審査事業）

【所管部局：教育委員会】

(1) 事業目的

阪神地域の知的障害特別支援学校在籍児童生徒の増加に対応するため、新たな特別支援学校の設置に向けた整備を推進する。

(2) 整備概要

- ① 設置場所：川西市丸山台3丁目
- ② 開校時期：令和6年4月
- ③ 障害種別等：知的障害（小・中学部、高等部）
- ④ 規模：120人程度

3 総事業費 約33億円

4 整備スケジュール（予定）

- 令和2～3年度 基本・実施設計
- 令和3年度 造成工事（12月まで）
建設工事（3月から）
- 令和6年度 供用開始



5 審査時点の計画内容からの変更点

特になし

【令和元年度総合事業等審査会における審査結果】

平成31年3月に策定した「兵庫県特別支援教育第三次推進計画」においては、第二次推進計画と異なり、今後も特別支援学校在籍児童生徒数は増加することが見込まれており、需要に応じた供給が困難な状況となっていることから、特別支援学校の新設が必要となっている。

県下で需要と供給の乖離が最も大きい阪神地域において、こやの里特別支援学校は、年々児童生徒数が増加しており、設置当初の想定児童生徒数である216人の約1.5倍となる323人の児童生徒が在籍している。その対応として、①特別教室の普通教室への転用、②猪名川高等学校への分教室の設置、③運動場への仮設教室の増設等を行っているが、この結果、学校行事等に制約が生じるなど、狭隘化に伴う教育環境の改善の優先度が高い。

こうしたなか、特別支援学校が設置されていない阪神北地域に特別支援学校を新設することで、児童生徒数に応じた特別教室等の確保など、適切な教育環境が整備されることに加え、児童生徒の通学時間を最大約30分程度短縮されることができると、児童生徒の通学環境の改善が期待される。

以上のことから、当事業の推進は妥当とする。なお、事業推進にあたっては、次の点に留意すること。

- ① 「兵庫県特別支援教育第三次推進計画」において増加が見込まれる児童・生徒への今後の対応については、需要変化を的確に捉えて、小中学校の統廃合に伴う既存校舎などの資源の有効活用を検討すること。

総合事業等審査会審査結果への対応状況等一覧 (令和元年度審査事業)

事業名 (審査日)	審査結果	審査結果への対応状況等	
		審査時点での事業計画内容	実施段階での事業内容
<p>阪神北地域新設特別支援学校整備事業 (R2. 1. 28)</p>	<p>平成31年3月に策定した「兵庫県特別支援教育第三次推進計画」においては、第二次推進計画と異なり、今後も特別支援学校在籍児童生徒数は増加することが見込まれており、需要に応じた供給が困難な状況となっていることから、特別支援学校の新設が必要となっている。</p> <p>県下で需要と供給の乖離が最も大きい阪神地域において、こやの里特別支援学校は、年々児童生徒数が増加しており、設置当初の想定児童生徒数である216人の約1.5倍となる323人の児童生徒が在籍している。その対応として、①特別教室の普通教室への転用、②猪名川高等学校への分教室の設置、③運動場への仮設教室の増設等を行っているが、この結果、学校行事等に制約が生じるなど、狭隘化に伴う教育環境の改善の優先度が高い。</p> <p>こうしたなか、特別支援学校が設置されていない阪神北地域に特別支援学校を新設することで、児童生徒数に応じた特別教室等の確保など、適切な教育環境が整備されることに加え、児童生徒の通学時間を最大約30分程度短縮されることができると、児童生徒の通学環境の改善が期待される。</p> <p>以上のことから、当事業の推進は妥当とする。なお、事業推進にあたっては、次の点に留意すること。</p> <p>① 「兵庫県特別支援教育第三次推進計画」において増加が見込まれる児童・生徒への今後の対応については、需要変化を的確に捉えて、小中学校の統廃合に伴う既存校舎などの資源の有効活用を検討すること。</p>	<p>① 兵庫県特別支援教育第三次推進計画（平成31～令和5年度（5年間）」を策定するに当たり、改めて児童生徒数を推計したところ、知的障害特別支援学校在籍児童生徒数は今後も引き続き増加傾向であることが判明した。</p> <p>特に阪神地域は狭隘化が著しく、こやの里特別支援学校では、既に特別教室の普通教室への転用や運動場への校舎の増築を行っており、これ以上の児童生徒数の増加は教育活動に支障をきたすことから、川西市内に新たに県立特別支援学校を整備することで、学校規模の適正化を図ることとしていた。</p>	<p>① 審査結果を踏まえ、阪神地域においては早期に活用可能な統廃合後の小・中学校がないことから、第三次推進計画での推計に加え、各年度の児童生徒数を注視しつつ、令和6年4月開校に向け、基本・実施設計を進めている。</p>

【参考】こやの里特別支援学校の在住市町別児童生徒数（各年度5月1日現在）

年度／通学区域	伊丹市	宝塚市	川西市	猪名川町	西宮市 (塩瀬中校区)	合計
R1	117人	102人	85人	12人	7人	323人
R2	117人	115人	88人	13人	5人	338人
R3	128人	112人	96人	16人	5人	357人

※在宅・訪問学級の児童生徒数を除く

【参考】阪神地域の知的障害特別支援学校児童生徒数(在宅・訪問学級の児童生徒数を除く)

年度	学校名	小学部	中学部	高等部	計	想定児童生徒数
R1	阪神	98人	81人	141人	320人	252人
	芦屋	85人	76人	178人	339人	246人
	こやの里	97人	84人	142人	323人	※312人
	計	280人	241人	461人	982人	810人
R2	阪神	95人	95人	138人	328人	同上
	芦屋	92人	84人	172人	348人	
	こやの里	107人	85人	146人	338人	
	計	294人	264人	456人	1,014人	
R3	阪神	94人	100人	122人	316人	※366人
	芦屋	92人	85人	163人	340人	246人
	こやの里	119人	97人	141人	357人	※312人
	計	305人	282人	426人	1,013人	924人

※増築分を含む。

県立阪神北地域新設特別支援学校 基本計画概要

○ 概要

整備背景：県立こやの里特別支援学校の児童生徒数が増加し、過密化している状況を解消するため
川西市北部に特別支援学校（知的障害：小学部、中学部、高等部）を新たに整備

建設場所：川西市丸山台3丁目4番

構造規模：本館棟(普通教室、体育館、特別教室) RC造地上4階建 8,289㎡

プール附属棟 RC造平屋建 144㎡

プール25m(4コース)、小プール6m×6m ほか外構、付帯施設

○ 配置計画



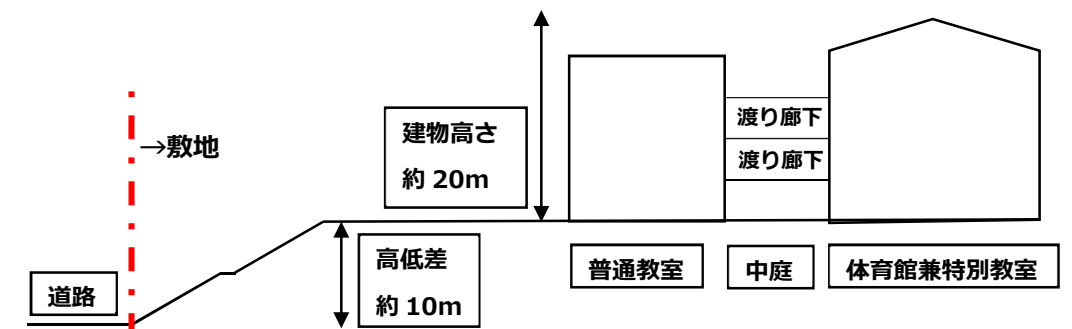
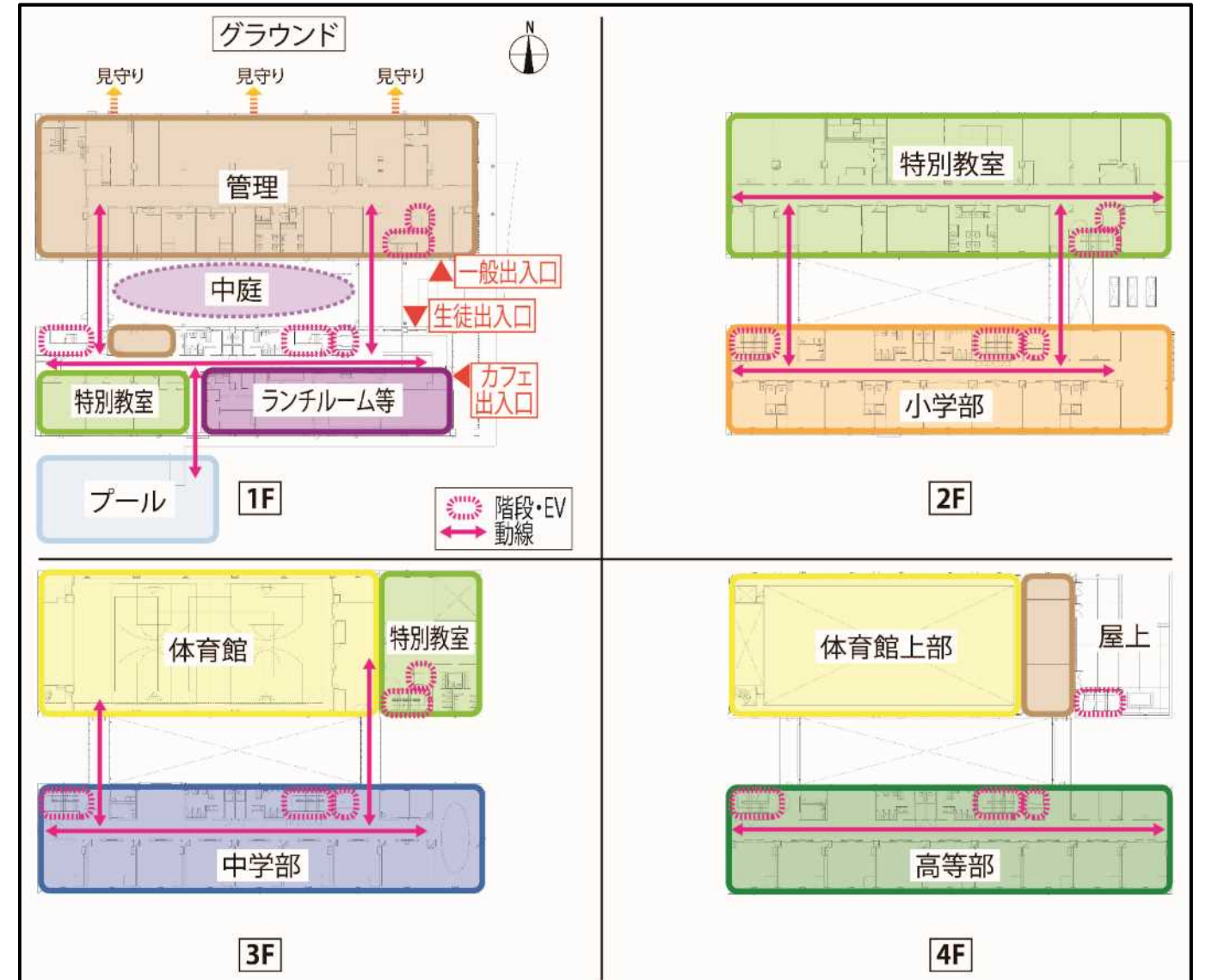
【完成予想パース 西面 住宅街道路より見上げ】

【完成予想パース 南西面鳥瞰】

○ スケジュール



○ 平面計画



断面図